

令和3年度

ひきだ いせき
引田遺跡
Web 説明会資料

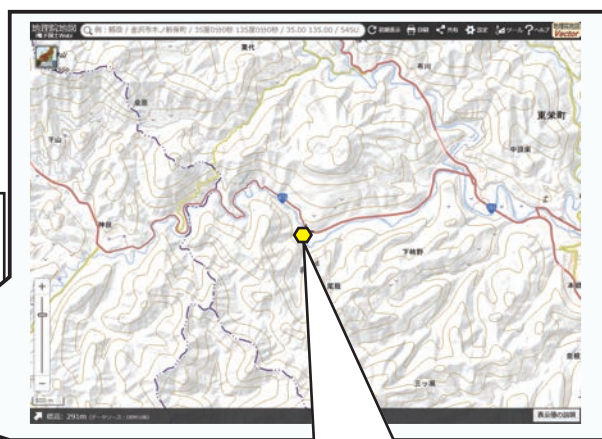
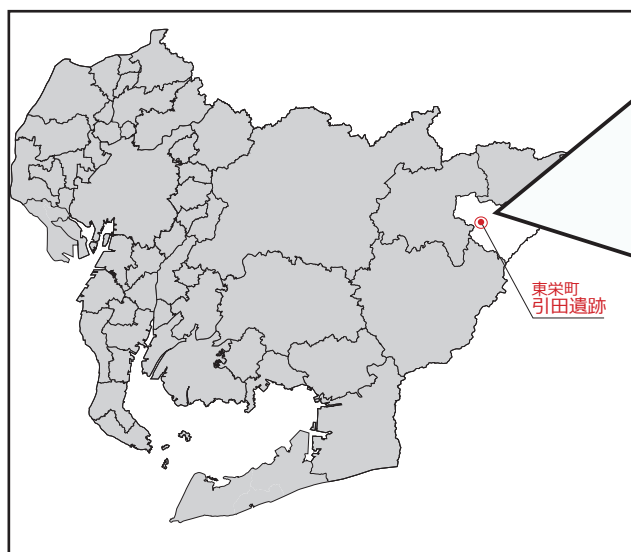
令和4年5月～7月 YouTubeにて動画公開

【調査の経緯】

調査は一般国道473号月バイパス道路改築工事に伴い、愛知県建設局道路建設課から愛知県民文化局を通じて当センターが委託を受けて実施しました。調査に先立ち、愛知県埋蔵文化財調査センターが範囲確認調査を行なっています。その調査結果に基づき、道路用地内のうち、遺跡の所在する段丘中央部にA区、この東側で山地斜面に近い部分にB区の2つの調査区を設定しました。

【遺跡の立地と環境】

本遺跡は御殿川（みとのがわ）の左岸、南向する緩斜面の段丘上に立地します。遺跡の立地する河岸段丘は北側の山地から南に突出し、西辺と南辺を御殿川が巡っています。標高は約420mです。遺跡の存在は戦時中より知られており、1985年に圃場整備に伴う立会調査が行われました。その時の調査は、耕作地内の二十数箇所で行われ、縄文時代後・晩期の遺物を中心に縄文時代前期から弥生時代中期の遺物が出土しました。その他に古代から中世の遺物が確認されています。



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24
電話(0567)67-4163【調査課】

HP <http://www.maibun.com/>

Facebook

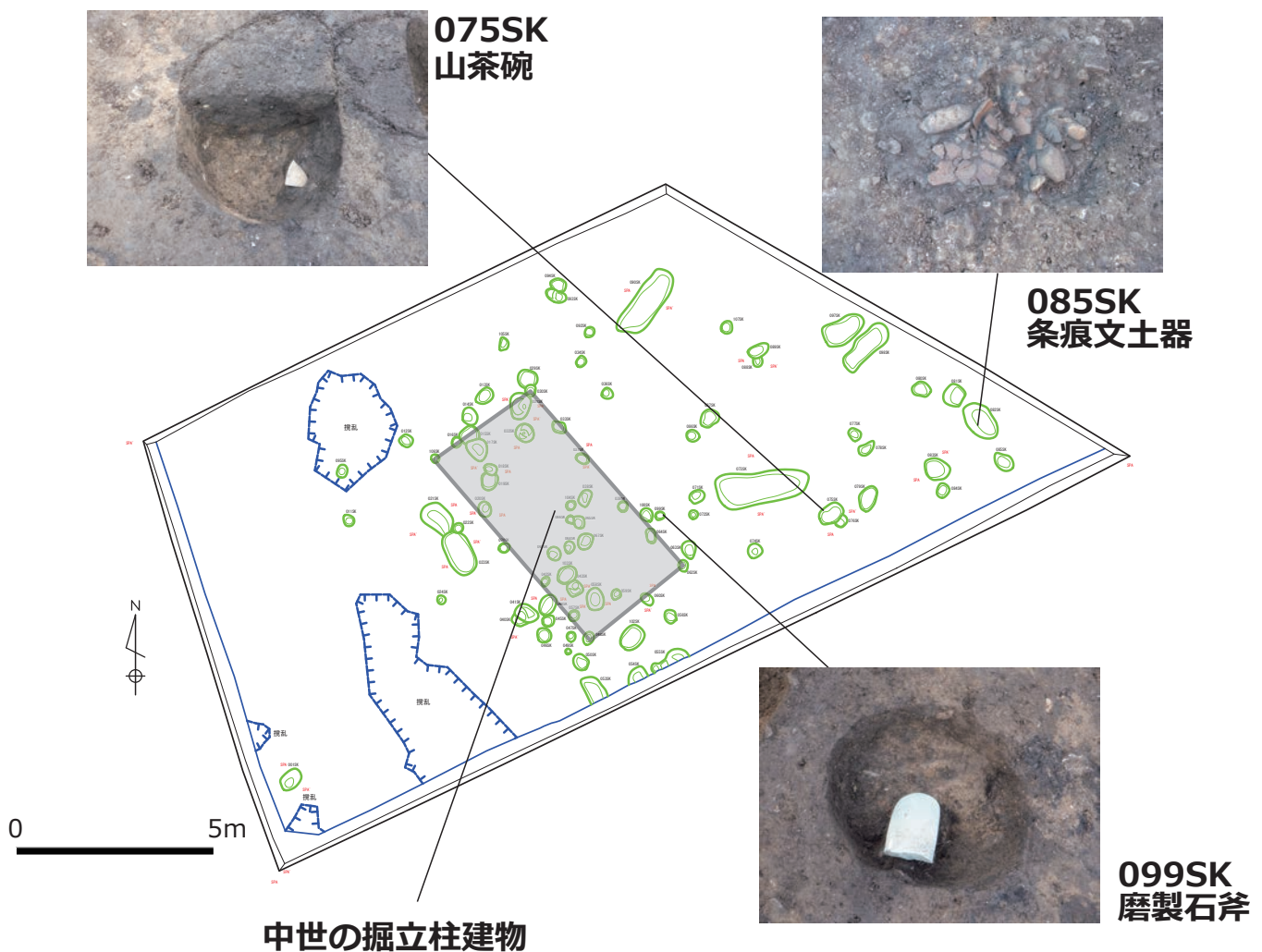
<https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter

https://twitter.com/aichi_maibun

【A区】

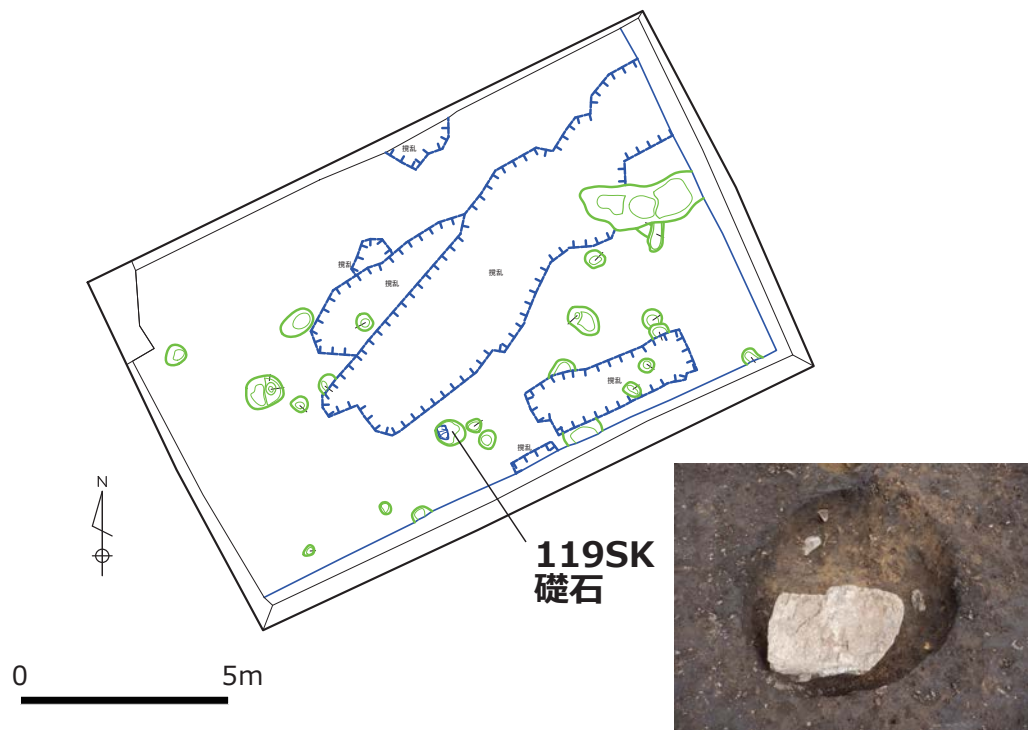
段丘のほぼ中央にあるA区の調査結果の概要を説明します。遺構としては土坑数基、小土坑が数十基検出されました。土坑のうち085SKから条痕文土器が出土しており弥生時代の土坑と考えられます。一方、小土坑の大半は掘立柱建物の柱穴と考えられます。小土坑のうち075SKの埋土中からは山茶碗が出土しており、12世紀始めの頃と思われます。また、出土遺物が少なく時期を特定できない方形の土坑が数基検出されました。そのうち2基は形態から墓坑の可能性があると考えています。出土遺物は、縄文土器および弥生時代前期～中期の条痕文土器などの土器類、縄文時代の石鏃および弥生時代の磨製石斧などの石器類が出土しました。また、古代末から中世初期の渥美・湖西窯系の山茶碗が少量出土しています。



▲ 21A区 遺構図面

【B区】

東方の斜面に近い場所がB区となります。この調査区では、小土坑約20基が検出されました。出土遺物が少なく時期は確定できませんが、これらの小土坑は掘立柱建物の柱穴と考えられます。小土坑の1基(119SK)からは、礎石の可能性のある石が検出されています。遺物は少なく、縄文土器と時期不明の土器が出土しているのみです。



▲ 21B区 遺構図面



▲ 21B区全景 南東から



▲引田遺跡 全景 東から



▲21A区 全景 西から